

三五九四番

潮待つと ありける舟を 知らずして 悔しく妹  
を 別れ来にけり

三五九五番

朝開き 漕ぎ出て来れば 武庫の浦の 潮干の瀉  
に 鶴が声すも

三五九六番

我妹子が 形見に見むを 印南つま 白波高み  
よそこにも見む

三五九七番

わたつみの 沖つ白波 立ち来らし 海人娘子ど  
も 島隠る見ゆ